2024年度

実施効果報告レポート

【事業者名】
南日本新聞社
【サービス名】
①すくーる373る

【支援項目】
①朝の業務、授業、授業準備

2025年1月

すくーる373るとは①

新聞に掲載されている記事を、確かな資料として学習に活用できるサイト

- 学校ごとにアカウントを設定。学校・学年単位で導入が可能。
- 当日発行された新聞紙面を登校後すぐに読むことが可能。飛行機や船舶で新聞を輸送しなければならない離島の学校でも、鹿児島県本土と同じ時間に最新の情報を知ることができる。南北600キロある鹿児島の地域格差を是正することにも役立つ。
- クラウド上のサービスとなる。iPad、Windows、chromebookなどのOSに対応している。
- 児童・生徒１人当たり１年間、定価990円（税込み）で利用できる。教職員の利用料は無料。

すくーる373るとは②

新聞記事を中心に7つの機能を備えた学習支援サイト

新聞を読む

当日発行の新聞を含む過去7日間の新聞紙面を閲覧可能。事前に準備することなく最新のニュースを授業に取り入れることが可能となる。朝の学活などの読書活動やスピーチで活用されることもある。

調べる

過去1年分の記事をキーワード検索。新聞に掲載された情報のため、信ぴょう性を確認する必要がなく、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができる。

授業

過去5年間に新聞掲載された記事を教員が児童・生徒に共有できる。キーワード検索するだけでさまざまな資料を探すことができる。

クイズ

勉強や地域に関するクイズが5問セットで出題される。授業中、児童・生徒の学習進度の違いによって生まれた隙間時間などで活用できる。

投稿

児童・生徒の作文やイラスト、詩を新聞投稿できる。作文を書く機会を増やすほか、読み手を意識した表現活動を行うことが可能。教員は児童・生徒が入力した作文データを校正後、投稿ボタンを押すだけで作業完了。国語や家庭学習の課題などで活用される。

ワークシート

新聞記事を題材に教員が監修したミニテストを集めたコンテンツ。学年や教科に対応したテストが複数あり、そのまま家庭学習の課題や授業中の隙間時間に活用することができる。児童・生徒が自己採点することもできるよう解答例が表示されるため、教員が採点しなくても活用することが可能。

連載

南日本新聞こども新聞に掲載された連載を掲載する。動物園、水族館の飼育員が書いた生き物の図鑑や元プロ野球選手のコラム、英語ニュースなど理科や英語、キャリア教育などに使えるコンテンツ。

導入した学校等設置者数：7自治体（小学校29校、中学校8校）

● 活用場面
国語、算数、理科、社会、総合的な学習、音楽、家庭科の授業
学級活動や生徒会活動、学校行事などの特別活動、家庭学習

● 活用した機能
授業、新聞を読む、調べる、投稿、クイズ、連載、ワークシート

事例1 グラフを検索、資料に活用 （小学5年国語）

石谷小学校（鹿児島市）

【活動の内容】

資料を用いて意見を文章にまとめる単元で活用した。教師が検索機能「調べる」を使って過去に新聞に掲載された様々なグラフを準備し、児童に共有した。

新聞記事に掲載されたグラフは簡潔な表現のため、児童でも分かりやすく、クラスの30人全員が意見を書くことができた。

【ポイント】

キーワード検索をするだけで必要なグラフを見つけることができ、授業準備が1時間程度で完了した。報道に基づいた資料は真偽を確かめる必要がない。インターネットで同様の準備をすれば、一つ一つの資料の出典を確かめる時間が必要となる。授業準備時間がかなり削減できた。

▼新聞に掲載されたグラフを元に児童が書いた意見文

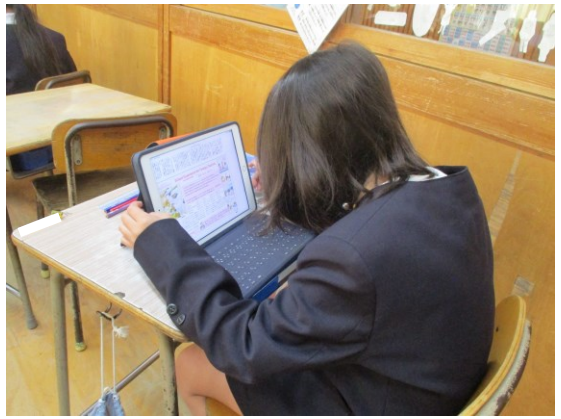
事例2 新聞投稿の業務を軽減

日当山小学校（霧島市）

【活動の内容】
児童の作文活動に「すくーる373る」を取り入れた。「投稿」の機能を使って、児童が作文を入力。「新聞を読む」の機能で他校の児童が投稿している作文を読み、参考にしながら作文を進めた。デジタル入力することで、楽しみながら積極的に作文活動を行うことができた。
また、「連載」や「クイズ」などの機能を活用することで、縦読みの文章を読み慣れることにつながったり、楽しみながら知識を増やしたりすることにつながった。

【ポイント】
投稿規定の450文字に合わせて文字数を考えて入力することで、児童の表現の練習につながった。データ手直しをするだけなので、児童、教員とも修正が楽だった。児童それぞれが興味に合わせて記事を探すことができ、教員も児童個人の興味関心を知るきっかけとなった。

▲児童が「すくーる373る」を使って書いた作文



◀「連載」機能を使い英語で書かれた記事を読む児童

事例3 教科書と暮らしをつなぐ（小学5、6年社会）

小山田小学校（鹿児島市）

【活動の内容】
メディアリテラシーを学ぶため、「令和の米騒動」に着目。児童はSNSやテレビのニュースとともに「すくーる373る」の検索機能で「米騒動」についての記事を探した。

【ポイント】
検索するだけでほしい記事が読めるため、手間が省けた。政治に関する単元は理解が難しい傾向にあるが、2024年にあった衆議院議員選挙やアメリカ大統領選、えん罪事件裁判などに関する記事を読むことで、身近な暮らしと教科書で学んだ政治を結びつけることができた。資料を利用する時に著作権を気にしなくてもいいので、児童が自由に記事を読めたり、まとめたりできる点もとてもよかった。

事例4 地域の資料を容易に収集（小学4年）

向陽小学校（鹿児島市）

【活動の内容】
国語や社会、算数など様々な場面で活用した。
郷土の偉人を学習する社会科では、「西郷隆盛」に関する記事をキーワードで探した。国語では新聞の構成について学習する際に「新聞を読む」で実際の紙面を見ながら学んだ。
新聞記事には概数がよく登場する。見出しや記事を読むことで、算数の概数が実際の社会でどのように使われているか理解することができた。

【ポイント】
地元新聞社の記事を使うことで、教科書にはない地域資料を容易に探し出すことができた。国語科の新聞の構成を学ぶ際には、クラス全員が同じ紙面を見ることができる点が最大の利点だった。同じ紙面の同じ個所を見ることができると、学習がスムーズに進む。紙の新聞では人数分、同じ紙面をそろえることは難しいため、同じ紙面を全員が閲覧できるデジタル版の導入が大変よかった。

▲「すくーる373る」でそれぞれ興味のある記事を読む児童

事例5 児童自ら楽しく学習（小学5年国語）

西伊敷小学校（鹿児島市）

【活動の内容】
「新聞を読もう」「統計資料の読み方」の単元で「すくーる373る」の「新聞を読む」の機能を活用した。新聞紙面の中から、グラフなどを児童が探した。円グラフ、棒グラフ、帯グラフ、地図上に重ねた丸の大小で規模を表す方法、イラストなどたくさんの資料を探し出すことができた。

【ポイント】
「すくーる373る」がなければ、教科書に例示されたグラフを見て学ぶが、児童が「すくーる373る」の新聞から自分で発見することで生き生きと学習していた。「すくーる373る」は授業者の意図から大きく外れた資料は出てこないため使いやすい。

学校活動支援サービス導入による成果

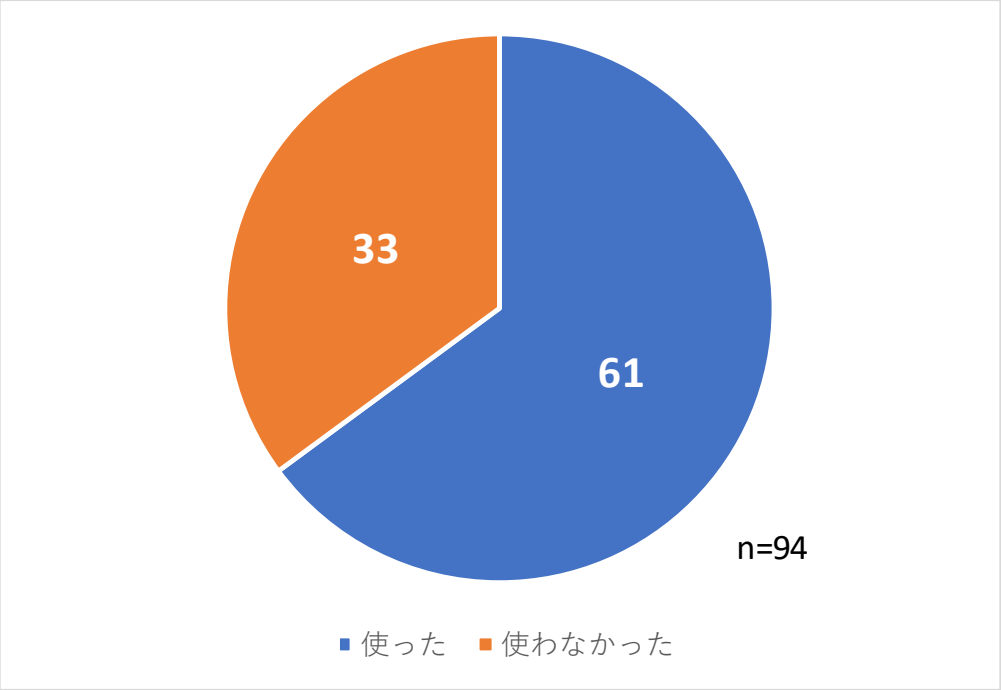
導入した学校の教員を対象に当サイトの活用頻度や場面、労務軽減につながったかなど、最大17問のアンケートを実施。小中学校29校94人から回答があった。

小学校中学校の年代別回答者

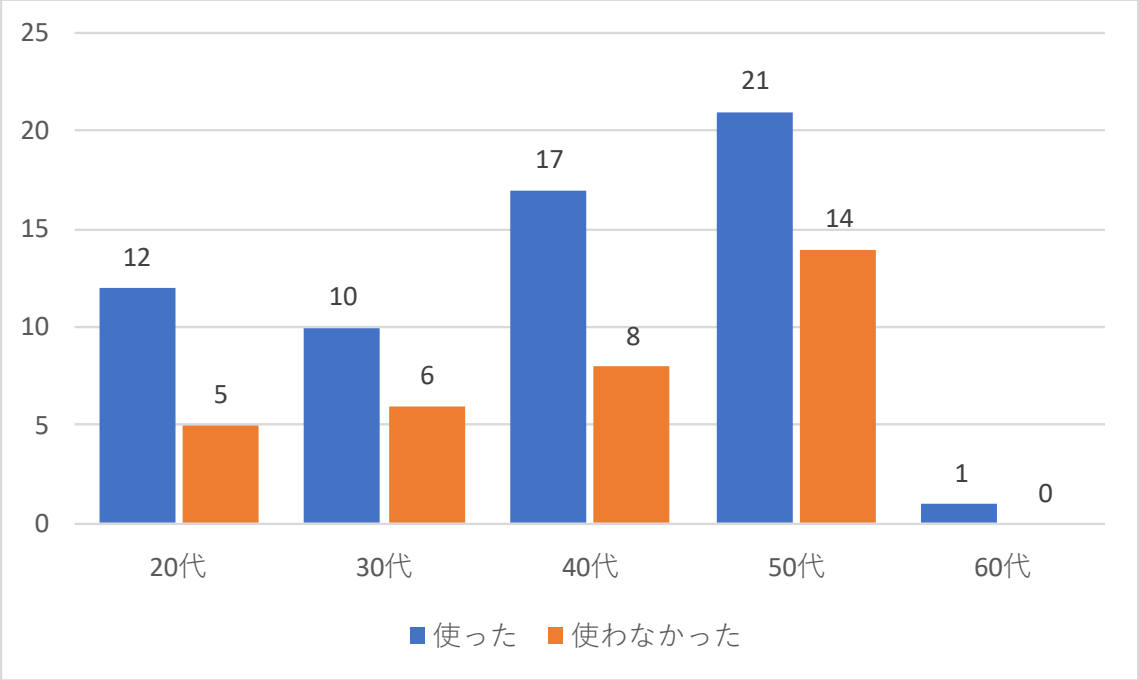
	20代	30代	40代	50代	60代	計
小学校	11	10	17	23		61
中学校	6	6	8	12	1	33
計	17	16	25	35	1	94

学校活動支援サービス導入による成果

回答した94人のうち、61人が当サイトを使用した。年代別では20～50代でほぼ同じ割合となり、世代間の差異は見られなかった。



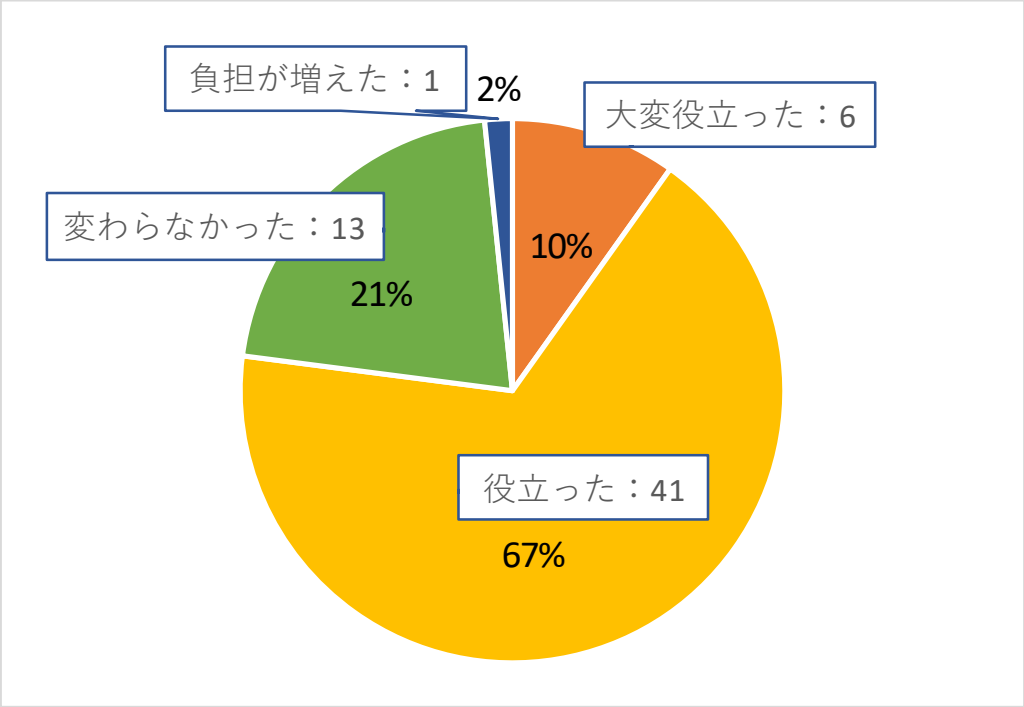
「すくーる373るを使いましたか」の回答結果



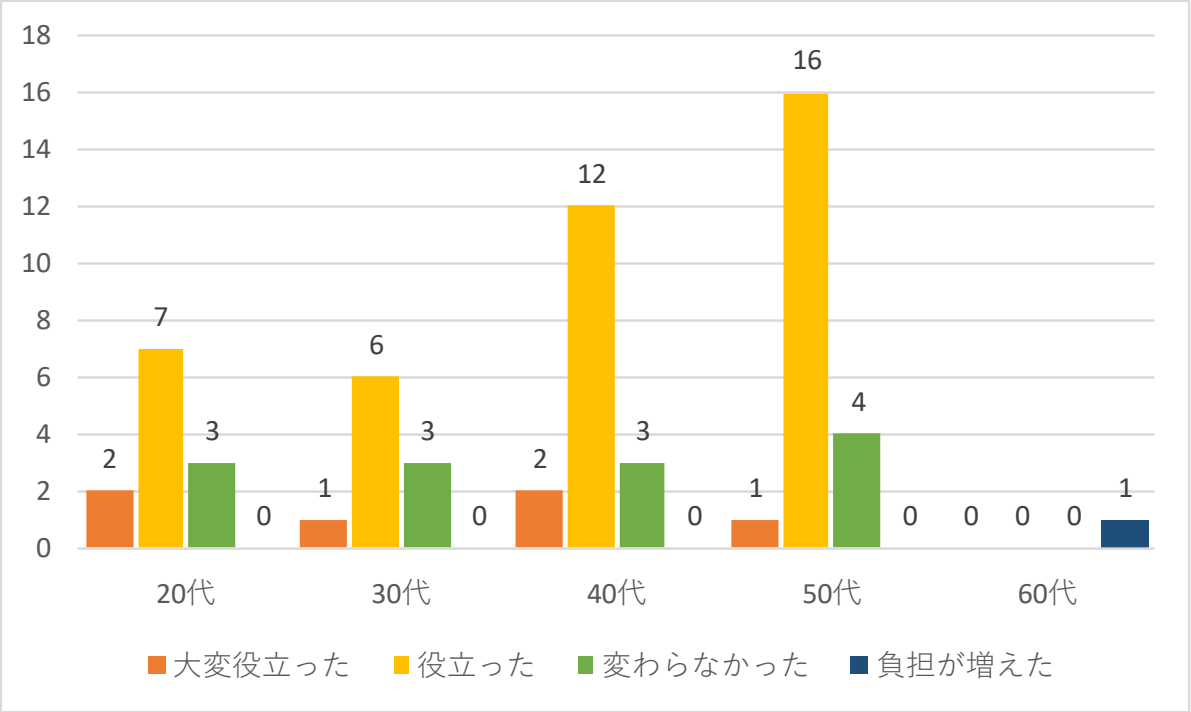
「すくーる373るを使いましたか」の年代別回答結果

学校活動支援サービス導入による成果

労務負荷の軽減についての質問に対しては、「大変役立った」「役立った」が計77%で、8割近くの教員が使用するメリットを感じていることが分かった。年代別の分析では、20～50代で世代間の差異はほとんど見られなかった。



「労務負荷の軽減に役立ちましたか」の回答結果



「労務負荷の軽減に役立ちましたか」の年代別回答結果

学校活動支援サービス導入による成果

授業1回あたりの準備について、労務負荷の軽減につながったか、またどれくらい時間が削減されたかを機能別に質問した。効果を感じた機能は、多い順に「新聞を読む」が29人、「調べる」が19人、「授業」「クイズ」がそれぞれ14人だった。4つの選択肢の階級値を決定し、回答数との積をもとに平均値を算出すると、「投稿」が40.0分、「調べる」が38.4分、「新聞を読む」が29.7分、「授業」が29.3分の順に削減時間が多いという結果になった。

また、機能別の平均値から全体の平均削減時間を算出すると、31.0分となった。

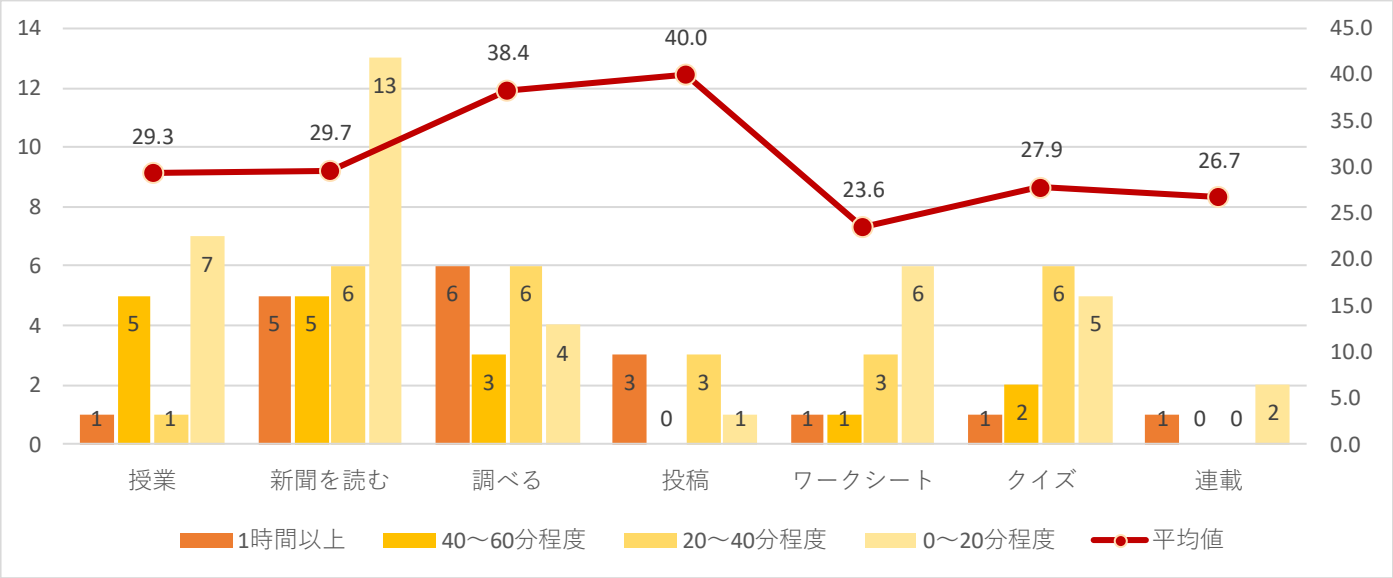
授業１回あたりの準備削減時間（機能別）の平均値

	１時間以上	40～60分程度	20～40分程度	0～20分程度	計	平均値
階級値	60	50	30	10		
授業	1	5	1	7	14	29.3
新聞を読む	5	5	6	13	29	29.7
調べる	6	3	6	4	19	38.4
投稿	3	0	3	1	7	40.0
ワークシート	1	1	3	6	11	23.6
クイズ	1	2	6	5	14	27.9
連載	1	0	0	2	3	26.7
計	18	16	25	38	97	31.0

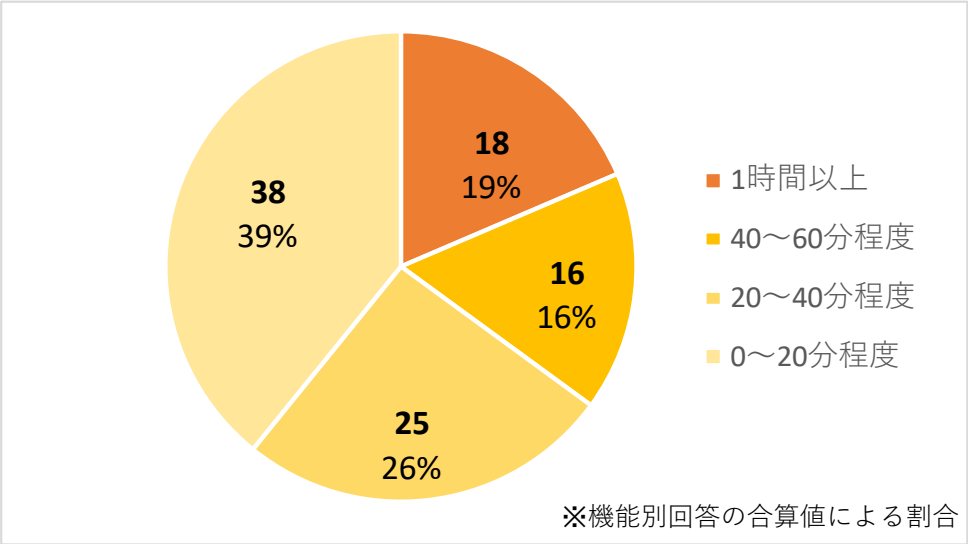
※「１時間以上」の階級値は60で計算

※度数分布表の階級値と回答数の積の和から平均値を算出

学校活動支援サービス導入による成果



授業１回あたりの準備削減時間（機能別）の回答結果



授業１回あたりの準備削減時間の回答結果

学校活動支援サービス導入による成果

利用した教員の8割近くが労務負荷の軽減に役立ったと回答していることからも分かるように、教員の労務軽減につながるサイトであるということが結論づけられる。労務負荷軽減を感じた教員の年代別の差異が見られなかった。キャリアの長短やICTへの親和性に関係なく、利用しやすく効果を感じるサイトであると考えられる。

機能別に見ると「新聞を読む」と「調べる」の機能に労務軽減の効果を感じた教員が多くいた。「新聞を読む」は難しい操作なくコンテンツを開くだけで活用できるため、手軽に活用できたと推察できる。「調べる」は軽減効果を感じた教員が多いとともに、負荷の削減時間も大きくなった。キーワード入力をするだけでさまざまな記事を検索することができるため、授業の資料探しをする時間の短縮につながったようだ。児童・生徒が直接資料を探すこともできるため、資料探し自体を行う必要がないケースもあり、労務軽減の効果を感じたのではないか。

「投稿」は、労務負荷の軽減として削減時間が多くなった。当サイトを利用する前は、児童・生徒の作文をリライトして、新聞社にweb投稿、郵送、ファクスで投稿を行っていた。当サイトを使うことで、児童・生徒の作文データを開き、選定、校正、送信を少ない操作手順で行うことで、リライトや送信作業にかかる時間を大幅に短縮できたと考えられる。

機能別に1授業当たりの労務削減時間を算出したところ、平均31.0分の削減となった。年間を通じて当サイトを利用することで、教員の労務負荷削減に大いに貢献できると考えられる。

サービス導入にあたっての課題とその改善策

【課題】

- サービス内容について詳細に周知できない学校もあった。
- 直感的に操作できるメインサービスに比べ、教員用の管理システムはやや操作が必要なため、使いこなせないという教員の声もあった。
- すべてのコンテンツにふりがなが付いているわけではないため、小学校低学年への活用方法の幅を広げることに課題があった。

【改善策】

- 各教育委員会と連携し、教頭研修会やICT担当者の研修会などで直接説明する時間を設けてもらった。教育委員会単位でオンラインでの研修会を実施したところもあった。研修の時間を取れない学校には活用例や操作方法のPDFを送付した。「すくーる373る」のメインサービス内でも活用事例を紹介し、児童・生徒たちにも具体的な活用例を示した。
- 教員用の管理システムのうち、よく使われる機能を抜粋して操作資料を学校に配った。
- 学校の教材である以上、間違ったふりがなを付けることはできず、自動化できない課題がある。開発部門と研究を行い、低学年でも使えるコンテンツへのブラッシュアップを図る。

教員のコメント

- 郷土の歴史や風土・出来事を調べる際に、多くの情報を簡単に調べることができて良かった。良質な文章に触れることが児童の文章力を付けるのに役に立っている。（50代・小学校）
- 豊富な資料をはじめ、いろいろなコンテンツが充実しており楽しみながら郷土学習に取り組んでいる。（50代・小学校）
- 児童の文章作成から投稿までを同じシステム上で行うことができるので便利。（30代・小学校）
- 子供達が新聞を毎日簡単に読むことができる。他の学校の児童の作品を読んで、自分の作品も載って欲しいと創作活動に意欲的になった。（50代・小学校）
- 子供たちの興味関心が強くなり、学習効果が大変高まった。（40代・小学校）
- キーワードを打ち込むだけで多くの記事がでできて、短時間で効率的に調べ、生徒も積極的に調べることができた。（20代・中学校）
- 大変ありがたいサービス。子どもたちは漢字が難しいと感じるので、ルビ機能がつくと更に活用できると思う。（20代・小学校）

児童・生徒のコメント

- 「調べる」で調べたいことがたくさん分かったのでうれしかった。あと、クイズもみんなと盛り上がって楽しかった。いつもすくーる373るを使って楽しい休み時間になった。（小4）
- 簡単なやり方ですぐに記事が出てきてわかりやすっかた。（小5）
- 最初は、めんどくさいから嫌だと思ったけど、やったら楽しくできたからうれしかった。（小5）
- クイズや、知ってる人たちの記事などを調べることができて楽しく学習ができた。（小5）
- 世の中の事に興味を持つ機会になったので非常に助かった。（小6）
- いろんな種類の記事を読めて、とても楽しかったし、情報が正しいのか考えるようになった。（小6）
- 地域のニュースや日本、世界の政治について興味を持つことができた。（小6）
- 初めての文章を読むことが 得意になった。楽しかった。（小6）
- 新聞やニュースを見るようになったり、関心を持つようになった。文章を読むのが得意になってきた。（中1）
- 文章から読み取る問題を解くことが得意になった。（中2）
- 日常生活でよく聞くことについてより詳しく知ることができ、知らなかったことを知って興味を持つことができてよかった。（中2）
- 資料が正しいのか考えるようになれた。疑問を持つことができるようになった。（中3）

会社概要

事業内容：新聞発行、広告営業、web関連事業、
販売業務、イベント主催など

資本金：8,380万円

新聞発行部数：22万7,662部（2024年10月現在）

発行エリア：鹿児島県、宮崎県の一部

代表取締役社長：佐潟隆一

所在地：鹿児島市与次郎1丁目9-33

支社総局：東京、福岡など20支社総局支局

問い合わせ窓口：デジタル営業部=099-813-5061